

# 春風秋霜 4月号

平成28年4月1日  
島田市教育委員会日より  
教育長 濱田和彦

春風をもって人に接し、秋霜をもって自らを慎む 佐藤一斎

## 1 新年度に向けて

平成28年度がスタートしました。各学校では校内組織が決まり、入学式の準備が行われていると思われます。これから始まる教育活動において、子供たちにとって安全・安心な学校、信頼される教育という視点を大切に、チーム学校としての動きをつくる努力をお願いします。そのためには、経験による価値観の違いから生じる違和感を口にしやすい環境や「笑顔・やりがい・仲間」を実感できる環境づくりが大切だと思います。

平成28年度の教育方針では、豊かな心を育てるために昨年に続き『子供の頑張りや伸びをきちんと価値付ける』ことや、キャリア教育を重視しています。また、昨年度行われた総合教育会議や学校のあり方検討委員会では、市民総ぐるみの教育が共通の話題でした。地域資源の活用も重要になります。新設した『夢育・地育推進事業』を効果的に活用し、夢を育むことや地域を好きな子供を地域とともに育てたいと考えています。

市長は、東海道金谷宿大学（生涯学習講座）の閉校式で、伸びる人には3つの条件があるという話をしました。

- ・ 自分には足りないものがあるという自覚
- ・ 教えてくださいという素直な気持ち
- ・ 「ありがとう」という感謝の気持ち

この3つは、教職員や子供にとっても大切なものだと思います。これまで、市教委は、心の教育を大切に、近年は強い心の育成も重視してきました。それに加え、市長の言う素直な心も子供の成長に欠かせないと思います。心の教育の成果が、子供の姿として見える学校が増えて欲しいと願っています。

## 2 初倉公民館の事業に参加して

3月12日（土）に初倉公民館と児童センターが共催し、湯日地区のNPOしろやまゆいの会の協力で行われた初倉里の楽校の炭焼き体験を見学しました。この体験活動は、約1ヶ月前に釜入れして焼いた炭を取り出すイベントで、親子及びNPOの方々総勢50人ほどが集まっていました。

土で固められた釜の入り口を開け、中から取り出された60cmほどの炭を持つ子供たちの笑顔は、体験の大切さを物語っていました。

その後、子供たちは富士山静岡空港の上り口となっている道路に移動し、路肩に芝桜を植える作業にも取り組みました。NPOの皆さんのサポートもあり、200m近い花壇に芝桜が植えられました。子供たちにとって地域に役に立ったという実感は、この花壇に花が咲く時に、更に強いものになると思いました。芝桜の生長を時々観察し、親が子供と共に喜んだ時、この体験が価値付けられ、子供の心にしっかり残るでしょう。

地域の皆様の子育てへの協力には心から感謝しなくてはなりません。学校は、このような地域の行事に対しアンテナを高くし、参加しやすいように子供たちの背中を押してあげることが大切でしょう。



### 3 ありがとう体験記の完成について

ありがとう体験記が完成しました。これまでで最多の441点の応募作文があり、教育委員がその中から優秀な49点を選出し、作文集にしました。一昨年から発行部数を増やし、市内の学校の全学級に配布しています。ぜひ、朝読書などで活用して欲しいと思います。

作文を読むと、子供たちの多様な体験を知ることができます。子供たちの成長によって、同じ体験でも捉え方が違う場合もあり、楽しく読むことができました。子供たちには、友達の作文を読むことによって、自分の行動を見つめて欲しいと思います。

この作文集は、市長が他市にも配っているのので、富士宮市教委では同じ様な作文集の作成が検討されていると聞きました。各学校の取り組みのおかげと感謝申し上げます。

### 4 夏樹静子作文コンクール表彰式について

夏樹静子作文コンクール表彰式が3月27日（日）川根町笹間で行われました。推理作家で有名な夏樹静子さんは、川根町笹間に学童疎開をしていたので、その縁から今でも作文コンクールの最終審査を行っていただいています。

去年は、戦後70年という記念すべき年でした。戦争を語る人たちが減り、戦争という大きな事件が風化してしまうことは心配です。夏樹静子さんから疎開の思い出として、食べ物不足や虱・蚤の苦勞を聞いたことがあります。戦争では戦争する大人だけでなく、多くの子どもも犠牲になることを忘れてはなりません。世界中で紛争やテロ事件が起きていることをもっと切実感をもって意識し、子供に戦争の悲惨さを伝えなければと思います。

夏樹静子さんの突然のご逝去を心からお悔やみします。

## 肘かけ椅子

畑 浩年 教育部長

先日、17点の“わがまちの宝”が、「しまだ市民遺産」として認定された。私も可能な限り、家山梅園など推薦のあった候補を見て廻った。そんな中、白光神社の梵鐘・鯉口や田町の大提灯など、まだまだ知らない“宝”が沢山あることに驚くとともに、新たな発見に出会えた喜びを感じた。

私の住んでいる東町でも、市民遺産が1つ認定された。江戸時代、未曾有の凶作を受け、年貢の減免を藤枝田中藩に嘆願し実現させた、「増田五郎右衛門」の功績を称えた義人碑や生家跡等である。

思い起こせば、息子が小学3年の時、総合的な学習の時間であったと思うが、五郎右衛門の劇が作られ、八幡神社の五郎まつりで、子供たちが演じるのを見て、初めて功績の具体を理解したことを覚えている。五郎右衛門の遺跡は、東海道島田宿から藤枝宿までの間に幾つかある。当時、息子の友達も連れて、藤枝長楽寺に建立された碑なども調べに行ったこともあり、懐かしさに加え、この遺跡が市の宝となったことに、地域住民の一人としても誇りを感じている。

他の地域にも、住民によって長く守り伝えられてきた大切な文化や史跡等がある。公的に“宝”として認定されたことで、住民は心に新たな力が沸き、誇り度も数段アップしたのではないだろうか。

これに携わった職員の一員としても、今後、市内にある数々の宝が更にその輝きを増し、パワースポットとなり、心の癒しのスポットとなって、多くの人が観に来てくれるようPR等に取り組んでいきたい。宝の秘めた力を糧として。